

人材の
育成

事例

地域一体となった支援体制で 次世代の造船業界の若手技術者を育成

愛媛県立今治工業高等学校 (愛媛県今治市)



左から、宮地洋安 教頭、西岡誠 校長、機械造船科 十亀伸二 先生

県知事と地域住民の意見交換会における、「経済活性化には造船業の継続的な繁栄が必要」との提言でした。この中に含まれていた高等学校の造船学科設置に知事や教育関係者、地域の

「地場産業を支える造船教育の新たな仕組みづくりを」

今治工業高等学校は、市内で唯一の工業学校として75年の歴史を誇る県立の工業高校です。機械造船科が新設されたことについて西岡誠校長は、『地学地就』による次世代の担い手育成の視点から、今治の一大地場産業である造船業界を支える人材に特化した教育体制を整備しようという目標がありました」と語ります。

地場産業を支える造船教育の新たな仕組みづくりを

これからの造船業を担う若手人材を育てるため、地域の教育機関や企業が一体となった技術教育が各地で始まっています。愛媛県立今治工業高等学校では、平成28年度から新たに機械造船科を設置しました。地元企業などの協力を支えられて、造船業界を目指す高校生たちが日々学習に励んでいます。

「造船は総合工」

同校での造船教育は初めてで、新学科開設にあたっては機械造船科の教師たちも猛勉強を重ねました。「船がどのように造られるかを、地元の造船所に通って初歩から教わりました」と、機械造船科長そがびの十亀伸二先生は振り返ります。

造船の現場をそのまま学べる実習環境

造船企業が強い関心を示し、同年10月には機械造船科の開設が決定しました。宮地洋安教頭は「教育をバックアップする造船教育推進委員会も設けられ、年2回の会合が行われています。西岡校長が会長を務め、地元造船関連企業をはじめ、今治地域造船技術センター、今治市、県教育委員会の委員の方々に参加していただき、地域一体の支援体制が築かれています」と、地元との密接な連携に力を込めます。



カリキュラムの一つ「匠の技継承講座」では造船会社の職員の技術を間近で体験。また、直接指導も受ける。

生徒に聞く！

いつかは人々に頼られる技術者に

父が地元の造船会社に勤めていて、自分も同じ会社に働いてみたいと思い、この科を選びました。地元の造船会社のイベントで造船りに興味を持ったことも大きいですね。高校に入学した時は、「やっと好きなことが学べる」と嬉しい気持ちでしたが、実際に勉強してみると、船の構造がとても複雑なことに驚きました。

将来は、まわりの人に頼られる技術者になりたいと思っています。そのためにも、より詳しい知識や経験を積んでいきたいです。



村上電斗さん
(機械造船科2年生)

学であるという視点からも、実地の環境で学べることは貴重です。こうした経験を通じて現場の課題を解決できる能力を身に付けて欲しい」と語る西岡校長。次世代の造船人材の育成に向け、今治工業高等学校は地域とともに進んでいきます。



実習棟も実際の造船会社と同じ設備を導入。現場に近い環境になるよう考えられている。